

1. 信州大学繊維学部 (官立上田蚕糸専門学校)
2. 笠原工業 (常田館製絲場)
3. 上田蚕種協業組合 (蚕種業)
4. 藤本 つむぎ工房 (上田紬)

1. 信州大学繊維学部 (官立上田蚕糸専門学校)

明治43年(1910年)に創立。養蚕科・製糸科から発足し、1919年には絹糸紡績科も設置された。現在は日本で唯一の繊維学部として先端的な研究・教育を進めている。重要文化財に指定されている講堂は1929年竣工の木造ゴシック系建築で、セセッション様式など見どころが多い。内部にはカイコ蛾や繭、桑の葉をモチーフとした意匠もあり、今でも卒業式や特別な講演等で使われている。また煉瓦造りで2階建ての繭倉庫もあり、蚕糸・製糸関係の教育・研究資料、歴史的資料を見ることができる。

<https://museum.umic.jp/map/document/dot26.html>



2. 笠原工業 (常田館製絲場)

明治33年(1900年)に上田で創業した製糸工場で、重要文化財に指定されている。繭倉庫群、選繭場や製糸工場事務所等が残っており、国内唯一の木造5階建て(土蔵造り)の倉庫や、長野県に現存する最古の鉄筋コンクリート造り5階建ての倉庫など、当時の隆盛が見てとれる。事務所兼館主住宅である常田館は、洋風建築を取り入れたもので、養蚕・製糸・器械類も展示されている。

<http://www.kasahara.co.jp/kasahara/tokidakan/>



3. 上田蚕種協業組合

大正5年(1916年)に地元の蚕種家が出資して上田蚕種株式会社として設立した。蚕種製造が全国でトップクラスであった上田の象徴的な建物群である。当時、建物は事務棟、検査室、食堂、催青室、貯蔵冷蔵庫、採卵室などがあり、最盛期には22万箱の蚕種をこの組合から出荷していた。事務所は大正時代の事務所建築に見られる特徴的な概観を有しており、現在も小規模ながら蚕種製造を行っている。

<https://museum.umic.jp/map/document/dot25.html>



4. 藤本 つむぎ工房 (上田紬)

上田紬は結城、大島と並ぶ「日本三大紬」の一つであり、国の伝統的工芸品に指定されている。古くから養蚕業が盛んであった上田では、屑繭を真綿にし、真綿からつむいだ糸糸で織られる紬織物が農家で自家用として作られていた。上田紬は経糸に生糸、緯糸に糸糸を使っており、独特の感触と軽さに加え、落ち着きのある光沢と風合い、丈夫さを兼ね備えている。現在も上田市内・近郊には数軒の工房・工場があり、品質の高い上田紬や現代の生活者の嗜好にあわせた絹織物製品を丁寧に作っている。見学する藤本つむぎ工房は、蚕種業から転換した最古参の紬工房である。

<http://ueda-tsumugi.com/> , <http://ueda-fujimoto.jp/>

